

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500016		
法人名	株式会社 スルガケアサービス		
事業所名	グループホームAMBIK		
所在地	静岡県熱海市上多賀967-24		
自己評価作成日	平成30年1月24日	評価結果市町村受理日	平成30年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022/kani=true&JigyosyoCd=2270500016-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然の中での落ち着いた環境で、季節を感じながら過ごしています。入居者自身の個性を尊重し、出来ることは行ってもらいながら、自分らしく生活できるよう支援しています。地域のイベントへの参加や、近くの公園や買い物等への外出、当施設でのイベントへの招待等行い、地域の人々との交流を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸沿いの高台に建つ事業所は、日々の散歩や事業所の窓から、季節の移り変わりを感じることができる。前回調査の目標達成計画で課題にしていた運営推進会議を見直し積極的に取り組んだことで、市や地域との良好な関係が築かれ、運営推進会議を情報交換の場として活用している。併設のデイサービスや小規模多機能型居宅介護と共に、地域に根差した福祉施設としての事業所の取り組みにも活かされている。利用者にとって幸せなことは何かを一番に考え、本人が穏やかに安心して暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「一緒(とも)に作る笑顔」を職員全員が共有し、それに向かって介護をしている	2ヶ月ごとに事業所理念に基づく具体的な目標を立てて居間に掲示し、「一緒(とも)に作る笑顔」の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会及び文化祭の見学参加、マラソンの応援等、地域の行事、毎月の道路清掃への参加、事業所の祭りへの招待を行っている	地域の道路清掃や運動会・福祉祭りに参加し、事業所近くの駅伝の応援等に出かけて地域との交流を行っている。地区社会福祉協議会との付き合いもあり、行事や研修等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の町内の1部を入居者と共に清掃を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政及び包括支援センターよりの情報及び、町内会・民生委員・利用家族の注意点・意見を活かしている	市職員や地域包括支援センター・民生委員・町内会長等が参加し、事業所の報告や情報交換を行っている。運営推進会議での話し合いにより、消防団の夜間の見回りで消防車が事業所まで来るようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会との防災等の協力、協力関係を築くよう、取り組んでいる	地域の人を対象に、市の新しい試みである総合事業の説明会を行う等、介護の知識を持ってもらえるように市と共に取り組んでいる。市の保険運営協議会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員参加の研修を行い、部署内での話し合いをし理解し、身体拘束をしないケアに取り組む、拘束の宣言を行いました	キャリアパス制度により研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所出入り口の施錠は、危険防止や安全を考慮し防犯マニュアルに沿って行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止は徹底されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内外の研修に参加し学ぶ機会を得ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分にいき、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族が面接に来た際などコミュニケーションを図り、意見をまとめている	家族の面会時には職員から声を掛けて意見や要望を聞き、意見箱も置いている。外部評価の家族アンケートでは回答が少なく、多くの意見を聞くことはできなかった。	個々の意見でなく、全体としての意見が反映されるように、会議記録を共有する等の仕組みができることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、ミーティングを行い話し合いの機会を持っている。意見や提案はその都度聞き、対応出来るようにしている	毎日の意見交換と毎月のグループホーム会議で職員の意見を聞き、年1回程度の個人面談を随時行っている。職員からの意見を取り入れ、町内の八百屋の協力を得て野菜の出張販売を始めた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等の把握に努め、職員個々の個性を活かして向上心を持ってもらう、環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	熱海事業所内の研修委員会にて年間の研修計画を策定し、外部・内部など研修を受けられる機会を確保し、個々の能力向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者連絡協議会の施設部会に入会し、ネットワークづくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者自身が安心して生活出来るよう本人の話に耳を傾けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心出来るよう面会の機会を持ち、家族の話を聞くようになっている 面会出来ない家族には、電話連絡を取り、状況報告をし、家族の話を聞くようになっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を尊重し、他のサービス利用も検討した上で、対応していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に暮らす関係を築けるよう一緒に相談しながら、出来る支援を心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族の面会を大変喜んでいる事、又、一緒に時間を大切に思っている事等、家族に伝え、家族と共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に参加し、馴染みの人等に会う機会を得ている	掛かりつけ医に行き、その待合室で近所の人に出会ったり、運動会や文化祭で顔見知りになった地域の人に声を掛けてもらったりしている。音楽会には馴染みの人と一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の雑談、また他の利用者さんの部屋へ行って、お話をされている 一緒に話の中に入ってお話をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の意向に応じ看取りも行えるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の過ごし方から、希望や意向の把握に努め、毎月介護計画を検討している	毎日の介護記録や、1ヶ月ごとのカンファレンスで情報を共有し、日々の関わりで本人の言葉や表情から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りにより、これまでの暮らしや、生活環境を把握していく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った一日の流れの中で、出来る事は行って頂く場を設けるように、配慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月チームでミーティングをし、課題ケアの在り方を話し合い現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、医師や職員の意見を反映させて介護計画を作成している。毎月のカンファレンスとモニタリングで職員が話し合い、状態に変化があった場合はその都度見直しをして、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の個別記録により、職員間での情報を共有・実践し、介護計画に反映している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各部署のサービス等、参考にしながら、柔軟な支援やサービスが出来るよう、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域資源の把握に努め、安全に楽しめる場を活用出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の月2回の往診を全員受けている 必要に応じ、歯科の往診も受けている	家族の希望する医療機関に受診し、専門医には、主治医の指示により受診している。毎年心肺蘇生法の研修を受け、職員は必要最小限の処置ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の各々の変化等気付きを看護職に伝え、受診や看護を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師との連絡等を常に行い情報交換に努めている 入院時には生活状況の報告をし、退院時には、カンファレンス等に参加している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合い事業所で出来る事を説明し、方針を共有する	看取りの指針があり、終末期ケアについての説明を行っている。同意書は複写して利用者と家族・身元引受人等それぞれが持ち、変化がある場合はその都度確認して同意を取り直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練を職員全員定期的に受け、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員及び利用者、防災避難訓練を行っている	年2回の防災訓練及び、夜間を想定した避難訓練を行っている。防災委員会があり、地域の消防団と協力して備蓄品や飲料水・排泄用水の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の方の人格を尊重し、言葉使いに注意している	個人情報の取り扱いについてのマニュアルがある。研修会を行い、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない声掛けや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言えるような雰囲気を作ったり、普段からコミュニケーションを取るように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望により、施設周辺の散歩や買い物や見学の外出をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度の散髪では、本人の好みに合わせたり、身だしなみや洋服を選ぶ事等支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の希望を聞いたり、出来る調理等、職員と一緒に準備や片付けをしている	皆で一つのテーブルを囲み、食事介助が必要な利用者には別のテーブルで対面式で介助し、職員と一緒に食事をしている。春にはふきのとう等の季節を感じる旬の食材を献立に取り入れ、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、食事量・水分量の少ない方への促しや、食事の量や形態に配慮し、支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり口腔ケアを、見守りや介助によって行っている 必要に応じ、歯科医師の口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録につけ、日中での排泄はトイレでの排泄に向け、経過時間にて、誘導を行う	各居室にトイレがあるため、自分の部屋に誘導するようにしている。チェック表で排泄の時間を把握し、声掛けをしてトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録につけ、必要に応じ、医師及び、看護師の助言により服薬及び飲食物の工夫や運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるよう、ゆっくりとした時間及び、プライバシーの保護のため、一人ずつでの入浴を行っている	週2～3回の入浴を行っている。比較的風呂好きの利用者が多いが、入浴を拒む利用には声掛けを工夫してゆったりと入ってもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状態に応じ、休息も取り入れ、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事行為を役割分担などをし、季節ごとの行事や買い物などに参加し、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に戸外に出掛け、近隣の散歩をしている 本人の希望により家族との外出希望を伝え、出掛けられるよう支援している	天気の良い日に事業所付近や向いの海岸沿いを散歩している。散歩の途中で道端の草花に季節を感じることができる。車で初詣やイチゴ狩りに出かけた時、季節の衣類の買い物に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望にそって、一緒に買い物をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望等を聞いて、ご家族へ連絡を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に一緒に行っている	居間の窓の間近に広がる桜の枝越しから海が見え、太陽や月も眺められる。清掃は自分の仕事として利用者と職員が一緒に行っている。つるし雛等の季節飾りや廊下の粘土人形等、職員の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのレクリエーションを行っている いつでも利用出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに一緒に行っている	居室は広く、トイレと洗面所が設置されている。カーペットを敷いて座卓を置いたり、整理ダンスやテレビ・長寿の賞状を飾る等、思い思いの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛けと見守りを常に行っている		